

種名	<u>イ モ リ</u> <u>Cynops pyrrhogaster pyrrhogaster</u> 
分類	有尾目イモリ科トウヨウイモリ属
俗称	腹が赤いことからアカハラと呼ばれる。
形態的な特徴	全長は7～14cm。背面は黒く、腹面は赤色に不規則な黒斑がある。腹の赤味や黒斑の模様は個体差が大きい。敵に襲われると皮膚から毒を出すため、腹の赤さは警告色であると考えられている。繁殖期のオスには婚姻色があらわれ、尾や胴体、頭部の側面は紫色がかかる。
分布	本州、四国、九州、佐渡島、淡路島、隠岐、奄岐、五島列島、天草諸島、甌島などに分布する。
繁殖行動	成体は、水田、池、小川などの水中で生活し、ボウフラ、ミジンコ、水生昆虫、オタマジャクシなどを食べる。昼間も活動するが、夜の方が活発である。オスは、春と秋に求愛のディスプレイをおこなって精子塊を放出し、メスはこれを総排出腔から取り入れる。産卵期は4～6月で、メスは産卵の時に精子を受精させ、水中の落ち葉や水草などを後脚で折りたたみながら一つずつ卵を産みつける。ふ化した幼生は、水中の無脊椎動物を食べて成長し、夏から秋にかけて3～5cmの大きさで変態し上陸する。幼体は成熟するまで陸上で生活し、繁殖のため水場に戻った後、再び水中で生活するようになる。繁殖に参加するようになるまで3年以上かかると考えられている。冬季は冬眠する。
生息場所	平地から山地にかけて広く分布し、水田や水のきれいな池、小川などのゆるやかな流れに生息する。
食性	ボウフラ、ミジンコ、水生昆虫、オタマジャクシなどを食べる。
生息環境への配慮事項	かつては水田や池などでふつうに見られたが、近年の農地整備などにより平野部では見かけることが少なくなり、地域的な絶滅が進行している。営農形態の変化により、通水時には池から水田や水路に大量の水が流れるため幼生が流され、その後、水量が減った時に側溝やU字溝にとり残された個体が乾燥死することが多い。そのため、整備の際には安定した水域を残すような配慮が必要である。
その他	準絶滅危惧(新潟県RDB) 準絶滅危惧(環境省RDB)
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	